

「情報教育指導の取り組み」

1 ねらい

- (1) インターネットによる情報収集とその活用を身に付ける
- (2) 電子メール利用時のマナーを知り、活用する。
- (3) Webページの情報の信用性を判断する力や、著作権や肖像権について理解する。

2 指導計画

- 1学年 ログイン、ログアウトの方法とパスワードの意義（技術・家庭科）
インターネットの活用（主に総合的な学習の時間）
Webページの情報の信用性やチャットやブログ、掲示板の危険性（技術・家庭科）
- 2学年 電子メール送信時のマナーの学習（技術・家庭科）
Webページの情報の信用性やチャットやブログ、掲示板の危険性（技術・家庭科）
- 3学年 Webページの情報の信用性やチャットやブログ、掲示板の危険性（技術・家庭科）
- 全校生徒 「携帯・インターネット安全教室」実施（協力：NTTドコモ）

3 授業実践例

「電子メール送信時のマナーについて考えよう」（2学年）

(1) 学習のねらい

生徒たちは電子メールを送信する際、マナーについて聞いたことはあるが、そのマナーに注意しながら送信することはあまりない。そこで、今後、日常生活の中で電子メールを活用することを想定し、マナーについて再度確認する。

- ①他人のプライバシーは守る。
- ②他人を攻撃することや悪口を書き込まない。
- ③チェーンメールは送信しない。
- ④件名を簡潔につける。
- ⑤誤解を招く文章にならないように心掛ける。
- ⑥本文の最後に短く簡潔な署名をつける。（自分の名前、メールアドレスの記入を忘れない。）



(2) 生徒の活動

ハイパーキューブ Next 2 を用い、学校のパソコン室内 LAN でメール送信を行う。

- ①各生徒から、電子メール送信時のマナーを考慮して送るように指示し、教師宛にメールを送る。
- ②学習した、電子メール送信時のマナーが守られているか確認し、評価する。
- ③教師からの返信を受ける。
- ④生徒同士でメール交換をする。その際も電子メール送信時のマナーを忘れないように指示する。

4 成果と今後の課題

生徒にとってインターネットや、電子メールは生活の中に当たり前のように存在しており、大人よりもパソコンの操作に詳しい生徒も少なくない。また、本校携帯電話の所有率が学年上がるごとに増えている現状がある。しかし、子どもがどのようなサイトにアクセスしているか、誰とメールのやり取りをしているか、全てを把握している保護者は少ないのが現状である。

本年度は、大人にとって当たり前だと思われる事例を挙げながら授業を行った。しかし、大人には当たり前だと思っていたことが、生徒にとっては当たり前でないことが分かった。そのため、正しい知識を定着させるために、定期テストだけでなく小テストや集会で呼び掛けるなど、機会があるごとに指導した。それでも、実名は載せなくても、サイト上に校内で交わされたクラスメイトの会話を載せるなどして面白がる生徒もいた。全部は把握しきれていないと思われるが、出来る限りいろいろな情報を生徒はじめ、保護者から集め、あまりにも度が過ぎ、見た人の気分を害するようなものについては、個別に指導も行った。

今現在も、生徒によるネット上への書き込みやネット上でのトラブルは必ずあると思われる。しかし、そこで生徒本人が加害者にならないために、守らなければならない最低限のマナーを繰り返し指導していきたいと思う。